

第41回原産年次大会 プログラム

基調テーマ：「人類の持続的発展と原子力の果たすべき役割」

4月15日（火）

開 会 9：30～10：00

◆原産協会会長所信表明

今井 敬 (社)日本原子力産業協会 会長

◆内閣総理大臣所感

福田 康夫 内閣総理大臣

セッション1 10：00～12：00

「持続的発展への条件を問う」

このセッションは大会全体の基調となるセッションと位置づけられる。
人類の持続的発展のためには「2大要素」を確保しなければならない。それらは、「地球環境」と「エネルギー」の2つであることを、ここであらためて提起する。その上で、気候変動の緩和とエネルギー安全保障の向上に貢献する原子力利用の意義を確かめることとする。

◆議長：茅 陽一 (財)地球環境産業技術研究機構 副理事長、東京大学 名誉教授

◆議長問題提起：

「持続的発展のためのエネルギー脱炭素化」

茅 陽一 前 出

◆講演：

「世界のエネルギー需要の展望とエネルギー安全保障」

フランソワ グエン 国際エネルギー機関(IEA) 上級政策顧問

「持続可能な世界のための原子力発電の重要性」

ユーリー ソコロフ 国際原子力機関(IAEA) 事務局次長

◆議長総括

セッション2

13:30~17:30

「環境とエネルギー——大規模原子力開発国と台頭しつつある国の戦略とは」

ここでは、セッション1での発表を受けて、持続的発展に不可欠な2大要素である「環境」と「エネルギー」の安全保障に対し、主要国はどう展望しているのか、どのような戦略を立てているのか、立てるべきなのか——を開陳する。

既に大規模な原子力発電利用を進めている国と今後台頭する国々が、環境・エネルギー・資源確保において直面する課題と解決に向けた基本政策や戦略を発信する。

各国の発表を通して、原子力はそれぞれの戦略の中で重要な役割を果たしうるとの認識を共有する。

◆司会：水野 潤子 フリーランスナレーター

◆講演：

「フランスのエネルギー政策——原子力に期待される役割」

フィリップ プラデル フランス原子力庁(CEA) 原子力開発局長

「ロシアからみた世界の原子力市場」

ピョートル シェドロビツキー アトムエネルギープロム 副社長

「米国における新規原子力発電所建設への確かな期待」

スコット ピーターソン 米国原子力エネルギー協会(NEI) 副理事長

「中国の原子力発電計画」

冯 毅(フェン イー) 中国原子力産業協会 事務局次長

「インドのエネルギー需要における原子力発電の特質」

シュレヤンス ジェイン インド原子力発電公社 社長

「ブラジルの電力システムと原子力発電の必要性」

レオナン ギマランイス ブラジル原子力発電公社 社長付顧問

「人類の持続可能な発展と南アフリカの原子力発電開発」

アレックス ツェラ 南アフリカ原子力産業協会 理事

「日本の原子力戦略」

平工 奉文 経済産業省 資源エネルギー庁 次長

レセプション

17:45~19:00

(会場：「プロビデンス」)

4月16日（水）

セッション3 9:30~12:30

「世界の原子力ネッサンスは本物か」

ここでは、セッション1、2での議論をふまえ、原子力は各国の戦略の中で重要な役割を果たせるとの共通認識をベースとした議論を展開する。

近年の世界的な原子力ネッサンスの流れを検証しつつ、原子力ネッサンスを本物とし原子力産業の持続的発展をはかる観点から、関係各国に共通する課題と解決のための方向性を探る。

◆**議長**：田中 知 東京大学 大学院 工学系研究科 システム量子工学専攻 教授

◆**基調講演**：

「国際的な規制協力、安全と安全保障の支え —— 将来の課題に応える」

ピーター ライオンズ 米国原子力規制委員会(NRC) 委員

◆**パネル討論**：

アキルベク カマルディノフ 駐日カザフスタン共和国 特命全権大使

ロバート バンナーメン 米国濃縮会社(USEC) 上級副社長

イーゴリ レシュコフ ロシア原子力庁 長官補佐官

リュック ウルセル アレバNP社 社長

金 鍾信(キム ジョンシン) 韓国水力原子力 社長

早瀬 佑一 (独)日本原子力研究開発機構 副理事長

◆**議長総括**

午餐会 12:45~14:30 (会場：「プロビデンス」)

セッション内容とは趣を変え、環境と持続可能な社会をめぐる文化的内容の講演を聴く場とする。

◆**講演 (45分)**

「江戸に学ぶ環境問題」

徳川 恒孝 徳川宗家第18代当主、(財)徳川記念財団 理事長

以上